

校名：鹿児島大学教育学部附属小学校

所在地：〒8920811 鹿児島市郡元1丁目20番15号 電話番号：099-285-7962

記載日：平成28年5月18日 記載者：小江 和樹 記載者役職：校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

- ・ 平成28年度で創立139年を迎える歴史と伝統ある学校である。
- ・ 校訓「まことの子 ちからの子 のぞみの子」は、真理を追い求め たくましく自らの人生を拓き、夢や目標の達成に向けて努力し続ける子ども育成の理念を表している。
- ・ 児童数は879名で、学級数は単式学級24、複式学級3である。
- ・ 学部との共同研究による小学校教育に関する理論的・実践的な研究の推進、教育実習生の指導の充実に取り組んでいる。
- ・ 県教育委員会や市町村教育委員会等との連携組織(「チーム鹿児島」)の一員として、公開研究会、教員免許状更新講習会、本校での現職研修などを通して、地域の教育課題の解決や教員の指導力向上に取り組んでいる。
- ・ 二学期制を導入し、長期休業を活用した学びの連続性の充実、授業日数・授業時数確保による教職員と子どもと向き合う時間の充実に取り組んでいる。
- ・ 体験活動を柱とした教育課程を編成し、知・徳・体を調和的に育むこと重視している。(例 鹿児島県内の山を巡る登山遠足、3年生からの集団宿泊学習、体験を通じた理解を図る「総合的な学習の時間」授業プランなど)
- ・ 県内公立小学校の約4割に複式学級がある鹿児島県の現状から、低・中・高の複式学級を3学級設置し、県のみならず全国に向け、効果的な複式学習指導法を積極的に発信している。
- ・ ALTが常駐しており、音声言語と文字言語をバランスよく育成する教科「外国語科」の授業を全学年毎週1時間ずつ実施している。(H27年度から教育課程特例校として実施)

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 個人ごとの追跡調査は行っていない。
- ② 20歳になる年度の1月2日に恒例行事となっている同窓会、2年に1回の定例同窓会で、卒業生及び当時の担任とが再会し、個々が近況等を確認し合うことはしている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 追跡調査は行っていないが、現職・OBを含めた名簿を毎年作成し、現在の所属や住所等を確認している。
- ② 全てのOBの状況を把握できている。また、その情報は鹿児島大学教育学部、本校、OBの全てが名簿を所持することで保有している。
- ③ 本校勤務経験者は、県・市町村教育委員会等の課長や指導主事、公立学校の校長、教頭、教諭、また、退職後は教育長、幼稚園長、公民館長、大学職員など、様々な教育分野で活躍している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて

1 地域のモデル校～「チーム鹿児島」の一員～

県教育委員会を中心とした市町村教育委員会や関係機関等の連携組織(「チーム鹿児島」)の一員であり、国・県の施策や地域が抱える教育課題について、実験的・先導的な取組を進め、地域のモデル校としての存在意義を高めている。

【教科等における学習指導】

- (1) 学力向上等の鹿児島県の課題解決をテーマとした公開研究会や授業力アップ講座の実施
- (2) 複式学習指導におけるICT活用に関する基礎研究の提案
- (3) 英語の教科化に向けたカリキュラム開発
(教育課程特例校「外国語科」)
- (4) 国立台北教育大学附属実験国民小学校との英語による国際交流
- (5) 知事部局との連携による世界文化遺産に係る授業づくり
※ 明治日本の産業革命遺産
- (6) 県総合教育センターへの学習指導案の提供
- (7) 県教育委員会Webサイトへの授業動画の提供



【複式学級授業】

【生きる力】の育成

確かな学力
豊かな心
健やかな体



【外国語科授業】

【教員研修】

- (8) 公立学校教員の現職研修の積極的受け入れ
- (9) 教職大学院設置の中核的研修実習校としての体制の整備
- (10) 教員免許状更新講習会の開設
- (11) 各種研修会・審査会等への附属教員の派遣

【教員養成】

- (12) 次年度新規採用教員として内定した学生への教職応用研修の実施

鹿児島大学教育学部
附属小学校

県教委等

チーム鹿児島

市町村教委

教育機関等

公立学校等

【教科等による学習指導】

- (1) 学力向上等の鹿児島県の課題解決をテーマとした公開研究会や授業力アップ講座の実施
 - ・ H27～28研究テーマ：「鹿児島の現状から自らの授業を問い直す」
 - ・ テーマ設定の目的：県の学力向上に関する課題(＝思考力・判断力・表現力の向上)への解決策を学習指導の面から提案
 - ・ 提案した授業改善の視点
 - ア 45分の授業で育てる思考力・判断力・表現力を明確にするための目標や内容の分析
 - イ 思考力・判断力・表現力の基盤となる比較・関係付けの能力を子どもたちが自ら発揮するための教師の働きかけ方と学び合いの在り方
 - ・ 実施上の実績
 - 平成27年10月19日(土)開催の授業力アップ講座 289名参加
 - 平成27年6月5日(金)開催の公開研究会 651名参加
- (2) 複式学習指導におけるICT活用に関する基礎研究の提案
 - ・ タブレット端末を活用した複式学習指導等の研究
 - ・ 遠隔地とのWebカメラによる授業交流(予定)
 - ・ 校内全域での無線LAN環境の活用
- (3) 英語の教科化に向けたカリキュラム開発
 - ・ 平成27年度から3年間教育課程特例校「外国語科」の指定校
 - ・ ALT・HRTによる教科としての「外国語科授業」を全学年毎週1時間実施
 - ・ 朝の活動を活用した年30回程度の文字言語指導(5・6年中心)
 - ・ 鹿児島大学の留学生を活用した外国語科授業(5年生で10時間)
- (4) 国立台北教育大学及び附属実験国民小学校との英語による国際交流
 - ・ 台北児童とのWebカメラによる英語交流, 台北教育大学教育実習生の受入
- (5) 知事部局との連携による世界文化遺産に係る授業づくり
 - ・ 鹿児島県の世界文化遺産に係る授業を知事部局と連携して開発し, 公立学校へ発信する。※明治日本の産業革命遺産(製鉄・製鋼, 造船, 石炭産業の施設遺構)
- (6) 県総合教育センターへの学習指導案の提供
 - ・ 毎年30本程度の学習指導細案の提供(過去5年間で100本以上は提供, Web閲覧可)
- (7) 県教育委員会Webサイトへの授業動画の提供(平成28年度配信予定)

【教員研修】

- (8) 公立学校教員の現職研修の積極的受け入れ
 - ・ 3日間程度の現職教員研修として, 県内3地区から8名受入(平成27年度実績)
- (9) 教職大学院設置の中核的研修実習校としての体制の整備
 - ・ 平成29年度開設に伴う校内組織の見直し, 今日的教育課題や教務主任・生徒指導主任といった職能別に対応したプログラム開発
- (10) 教員免許状更新講習会の開設
 - ・ 265名の受講(平成22年度～平成27年度実績)
- (11) 各種研修会・審査会等への附属教員の派遣
 - ・ 講師派遣34回, 延べ人数48名を派遣(平成27年度実績)

【教員養成】

- (12) 新規採用教員内定学生への教職応用研修の実施, 64名の受講
(平成22年度～平成27年度実績)

2 地域のモデル校～「持続可能で発展するPTA活動」～

- 現状：学年・学級PTA等のPTA活動への参加率は常に90%以上
：保護者によるPDCAサイクルを重視した自治的運営と主体的活動の展開
- 成果：平成27年度に日本PTA全国協議会から「功労賞」を授与
- 課題：PTA活動に対する過重負担の軽減・公平分担，やりがい感の更なる醸成
(少子高齢化や共働き世帯の増加など保護者を取り巻く環境の変化)
- 「持続可能で発展するPTA活動」をめざした改善 ※概要及び内容抜粋

	改革前	改革後	改革のねらい
役員経験等	免除等は無し	P執行部，理事等の役職経験により，その後の役職は免除	負担軽減
専門部所属編制	特に規定なし	同学年による編制	負担軽減 学年内の連携強化
一人一役	児童一人につき一役	一家庭につき一役	負担軽減
PTAテーマ	毎年更新	学校教育目標と同一	目標と方向性の共有 活動精選・効率化
各種活動	各専門部ごとに企画運営	学年・専門部との連携，活動の見直し	運営の工夫改善 活動精選・効率化

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか

- 実験的・先導的な取組により，地域のモデル校としての存在となっている。
- 鹿児島という地方にあって，本校は，地域のモデル校として，鹿児島県の教育水準の維持・向上を図る上でなくてはならない存在である。
- 養成・採用・現職研修の体系化の中で，教員養成機関として重要な役割を担っており，県の教育振興への貢献度が高い。
- 郷土鹿児島の活性化と更なる発展のために，鹿児島の未来を担う人材を，地域と共に育てるといった重責を負っている存在である。

なお，本校教職員や本校勤務経験者は，上記についての役割と責任を自覚し，日々研究と修養に励んでいる。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義

【附属学校の存在意義】

- 教育基本法第9条に述べられている「自己の崇高な使命を深く自覚し，絶えず研究と修養に励み」を具現化している学校
- 本校同様「地域のモデル校」として地域の教育振興・発展を支える学校

【本校の存在意義】

- 教科等の研究実践を通して，鹿児島の未来を担う人材を育成するとともに，学部との共同研究や有能な人的資源等を生かして，県の緊要な課題解決をよりよく図ることができる。